



E. アフリカの小麦消費量は世界有数 ©今村健志朗
 F. ナイジェリアの港に停泊する大型貨物船 ©Danita Delimont/Alamy/PPS
 G. アフリカでは携帯電話の普及が急速に拡大 ©Charles Sturge/Alamy/PPS
 H/I. サッカーW杯の開催に向けて準備が進む南アフリカ共和国 ©久野武志
 J. 1980年、独立を喜ぶジンバブエの人々 ©Peter Jordan/Alamy/PPS
 K. 豪快な笑顔が印象的なモザンビーク人 ©長倉洋海
 L. アフリカ51カ国が参加したTICADIV



The Fourth Tokyo International Conference on African Development
 第4回アフリカ開発会議
 May 28-30, 2008 Yokohama, Japan
 Organized by Government of Japan, United Nations, UNDP, and World Bank
 Towards a bright future: a continent of hope and opportunity
 Vers un avenir brillant: un continent d'espoir et d'opportunités
 明るい未来を目指して、希望と機会の大陸

2010年は、アフリカにとって記念すべき年だ。

【アフリカの年】50周年— 1960年、ヨーロッパ諸国による植民地支配からアフリカ17カ国が一気に独立を果たした。名実ともにアフリカのターニングポイントとなったこの年は、後に「アフリカの年」とも呼ばれるように。それから半世紀、アフリカはどう変わったのだろうか。

【サッカーW杯、アフリカ大陸で初の開催】— 今年6~7月にかけて、サッカーワールドカップが南アフリカ共和国で開催される。開催が決定してから、スタジアムの建設やインフラ整備など、精力的に準備が進められている。現地の盛り上がりは最高潮、世界中から注目を浴びている。

【TICADIVフォローアップ中間年】— 国際社会のアフリカ支援をリードすべく、日本は93年から5年ごとに「アフリカ開発会議(TICAD)」を開催。2008年に開催されたTICADIVでは、対アフリカ政府開発援助(ODA)倍増と5年間の支援目標(フォローアップ)が決定された。アフリカの成長の加速化を目指し、各国は積極的な支援を展開している。

そして今、独立国53カ国から成るこの広大な大陸に、世界各国の企業も新たな投資先として進出し始めている。かつては「暗黒の大陸」と称されたアフリカ。15~19世紀の奴隷貿易から、ヨーロッパ諸国による植民地支配まで。長く続いた迫害の歴史を経て、50年前の「アフリカの年」を契機に、アフリカは新しい時代に入っていた。



特集 アフリカ新時代へ

編集協力：高橋基樹・神戸大学大学院国際協力研究科教授

【アフリカ開発会議(TICAD)の歩み】

<TICADI>1993年10月
 国連、「アフリカのためのグローバル連合(GCA)」との共催
 参加国：アフリカ48カ国、援助国12カ国、国際機関など
 成果：「アフリカ開発に関する東京宣言」を採択。「アフリカ開発は国際社会が取り組むべき優先課題である」と表明された。

<TICADII>1998年10月
 国連、GCA、国連開発計画(UNDP)との共催
 参加国：アフリカ51カ国、その他29カ国、国際機関、NGOなど
 成果：「東京行動計画」を採択。社会開発、経済開発、良い統治・紛争予防と紛争後の開発の政策が合意された。

<TICADIII>2003年9月
 国連、GCA、UNDP、世界銀行との共催
 参加国：アフリカ50カ国、その他39カ国、国際機関47機関、NGOなど
 成果：「TICAD10周年宣言」と「TICAD議長サマリー」を採択。平和の定着、人間中心の開発、経済成長を通じた貧困削減が提示された。

<TICADIV>2008年5月
 国連、UNDP、世界銀行との共催
 参加国：アフリカ51カ国、その他34カ国、国際機関74機関、NGOなど
 成果：「横浜宣言」を採択。農業開発、貿易・投資、観光の促進、産業開発、人材育成などに注目。5年間のアフリカ支援ロードマップ「横浜行動計画」を提示。

A. 大漁で活気づくアンゴラの港 ©長倉洋海
 B. セネガル首都ダカールの大渋滞 ©今村健志朗
 C. ボツワナのダイヤモンド鉱山から岩を搬出 ©Karin Duthie/Alamy/PPS
 D. 4月に大統領選が予定されるスーダン ©ロイター/アフロ

